

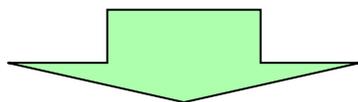
# 姫路市(近畿圏ブロック)

【計画期間 21年12月～27年3月】

・戦国時代: 姫路城の城下町として栄え発展の基礎を築く  
 ・戦後～ : 戦災からの復興、臨海部での工業地帯の形成などにより、播磨地域の中核都市として発展

○郊外や他都市に対する相対的な商業魅力が低下、増加傾向にある観光客のまちなか回遊が不十分

○都市機能の集積、公共交通の発達にもかかわらず、魅力や活力の低下により、中心市街地の居住者数は減少傾向



目標	指標	現況値(H21)	目標値(H26)
人々が訪れ、集い、回遊するまち	歩行者・自転車通行量	74,635人	85,800人 (※H27.4の調査結果とする)
	空き店舗数	40店舗	30店舗
人々が暮らしたくなるまち	居住者数	8,341人	8,656人

○歩行者・自転車通行量

H11:88,962人 → H21:74,635人(▲約16%)

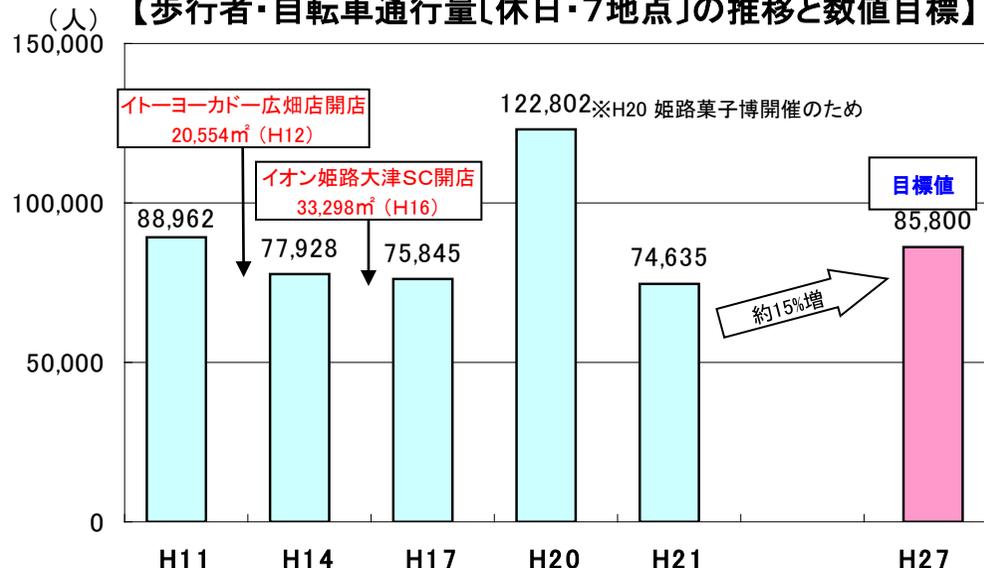
○空き店舗数

H15:33店舗 → H21:40店舗(約21%増)

○居住者数

H10:9,283人 → H21:8,341人(▲約10%)

【歩行者・自転車通行量[休日・7地点]の推移と数値目標】



■商業魅力の向上や集積により、誰もが訪れやすい環境整備を進め、人々が回遊するまちを目指す。

⇒主要事業: ①キャスト21エントランスゾーン整備、②地下街改修、③新駅ビル整備、  
 ④西二階町コミュニティホール活用、⑤にぎわい交流施設整備(「街の駅」建替え)

■街なかの利便性や居住環境の向上等で、魅力を高めることにより、人々が暮らしたくなるまちを目指す。

⇒主要事業: ⑥駅南土地区画整理事業、⑦(仮称)姫路市立総合教育センター整備

